

資料 1

緊急消防援助隊ならびに NPO (ボランティア団体) へのアンケート調査  
結果報告  
(平成 15 年 2 月 18 日 現在)

## 目次

1. 緊急消防援助隊に関するアンケート結果 .....	3
1.1 アンケート回答期間 .....	3
1.2 アンケート依頼消防局数、回答団体数 .....	3
1.3 質問項目 .....	3
1.4 質問内容および回答結果 .....	4
2. NPO へのアンケート結果 .....	11
2.1 アンケート回答期間 .....	11
2.2 アンケート依頼団体数、回答団体数および回答率 .....	11
2.3 回答いただいた NPO の所在都道府県 .....	12
2.4 質問項目 .....	13
2.5 質問内容および回答結果 .....	13

## 1. 緊急消防援助隊に関するアンケート結果

### 1.1 アンケート回答期間

平成 15 年 2 月 3 日 ~

### 1.2 アンケート依頼消防局数、回答団体数

#### アンケート依頼消防局数

以下の指揮支援部隊がある 13 消防局である。

札幌市消防局
仙台市消防局
東京消防庁
千葉市消防局
横浜市消防局
川崎市消防局
名古屋市消防局
京都市消防局
大阪市消防局
神戸市消防局
広島市消防局
北九州市消防局
福岡市消防局

#### アンケート回答団体数

11 消防局（現在）

### 1.3 質問項目

- |  |
|--|
| 問 1 発災時を想定した場合、既存の広域防災拠点のベースキャンプ機能の充実度 |
| 問 2 発災時を想定した場合、既存の広域防災拠点の質的・量的に不足している点 |
| 問 3 既存の広域防災拠点の平常時利用状況ならびに充実度           |
| 問 4 平常時の広域防災拠点の有効利用形態                  |
| 問 5 平常時の有効利用のためにどのようなものが必要か            |

#### 1.4 質問内容および回答結果

以降、質問項目ごとの内容および回答結果を示す。

**問1 発災時を想定した場合、既存の広域防災拠点のベースキャンプ機能の充実度についてお聞かせください。**

いずれかに をつけてください。また、その他施設がございましたら施設等をご記入ください。

災害対策本部が置かれる合同調整管理棟	(	充分	不充分	)
防災ヘリコプターの離陸・着陸を行うヘリポート	(	充分	不充分	)
応援人員・応援車両集結地となる多目的広場	(	充分	不充分	)
その他施設 ( _____ )	(	充分	不充分	)
( _____ )	(	充分	不充分	)
( _____ )	(	充分	不充分	)

**問2 発災時を想定した場合、既存の広域防災拠点の質的・量的に不足している点をご記入ください。**

ex. 人員および車両集結のためのスペースが充分ではない  
車両等の保守を行える施設がない  
燃料備蓄施設がない  
広域防災拠点周辺の交通アクセス（道路整備）が不十分である 等

< 記入欄 >

問 1 発災時を想定した場合、既存の広域防災拠点のベースキャンプ機能の充実度

		充分	不充分	該当する施設なし
災害対策本部が置かれる合同調整管理棟		2	4	5
防災ヘリコプターの離陸・着陸を行うヘリポート		2	5	4
応援人員・応援車両集結地となる多目的広場		2	4	5
その他施設	トイレ・宿泊施設	0	2	9
	給食施設	0	1	10
	燃料備蓄施設	0	2	9
	物資備蓄施設	0	2	9
	車両整備施設	0	1	10
	通信施設	0	1	10

< 回答消防局数 11 消防局 >

問 2 発災時を想定した場合、既存の広域防災拠点の質的・量的に不足している点

質的・量的に不足している点	回答数
人員および車両集結のための受入スペースが充分ではない	5
車両および資機材整備施設がない	3
燃料備蓄量が充分ではない	3
食品等備蓄庫（応援部隊等の災害対応関係者用）がない	2
要員宿舎（野営含む）がない	1
給食センター（調理設備）がない	1

< 回答消防局数 11 消防局 >

問 3 既存の広域防災拠点の平常時利用状況ならびに充実度についてお聞かせください。

平常時における既存の広域防災拠点の利用頻度をご記入ください。

( \_\_\_\_\_ 回 / 年 )

平常時における既存の広域防災拠点の利用形態をご記入ください。

訓練・研修

その他の利用形態 ( \_\_\_\_\_ )  
( \_\_\_\_\_ )  
( \_\_\_\_\_ )  
( \_\_\_\_\_ )

訓練等の平常時利用を考えた場合、既存の広域防災拠点の質・量的に不足している点をお聞かせください。

ex. 訓練等の利用敷地面積が十分ではない。

密閉空間災害訓練を行える施設がない。

災害図上訓練を行うための設備がない。

複数の広域防災拠点の訓練施設が分散しており、総合的な訓練が実施しにくい状況である。 等

< 記入欄 >

平常時における既存の広域防災拠点の利用形態および利用頻度

利用形態	利用頻度
訓練・研修に利用	2回/年(神戸市)
	461回/年(広島市)
体育館として利用	不定期
備蓄庫として利用	常時

< 回答消防局数 3消防局 >

なお、8消防局は、該当する施設を有していない。

訓練等の平常時利用を考えた場合、既存の広域防災拠点の質・量的に不足している点

質・量的な不足点
訓練の利用敷地面積が不十分
複数の広域防災拠点の訓練施設が分散しており、関係各機関が連携した訓練ができない。
立地事情等により活用・参加消防機関が限定される
訓練塔等施設(密閉空間対応含む)がない
災害図上訓練の施設設備がない
航空隊を含めた総合訓練設備がない

< 回答消防局数 4消防局 >

また、他機関を含めた総合的な訓練を行う場合は、施設管理者等の調整が必要となるケースがある。

**問 4 平常時の広域防災拠点の有効利用形態についてお聞かせください。**

- ex.  他の防災機関との連携の取れた集合訓練に有効利用できる。  
  緊急消防援助隊の受け入れから実際の活動までの総合的な訓練に有効利用できる。  
  数台以上のポンプ車を連結させた長距離送水訓練に有効利用できる。  等

< 記入欄 >

**問 5 平常時の有効利用のためにどのようなものが必要かお聞かせください。**

- ex.  訓練に適した多目的広場（芝植生は不可である）  
  密閉空間災害訓練を行える施設  
  災害図上訓練を行う災害対応シミュレーションソフトウェア  
  緊急消防援助隊動態情報システム<sup>注2)</sup>  
  訓練の際の車両等の保守を行える施設  
  訓練の際の燃料備蓄施設  等

< 記入欄 >

**注 2) 緊急消防援助隊動態情報システム**

緊急消防援助隊派遣車両の位置及び動態を把握するためのシステムで、車載 GPS により特定した車両位置と車載端末装置から入力した車両動態を携帯電話通信網により消防庁に設置したサーバに送信し、広域応援支援システムの電子地図上にシンボルで表示するものである。



#### 問 4 平常時の広域防災拠点の有効利用形態

都道府県内の広域応援訓練
広域緊急援助隊および他の防災機関（自衛隊、海上保安庁等）と連携した合同集合訓練
広域緊急援助隊および他の防災機関（自衛隊、海上保安庁等）による災害図上訓練およびロールプレイング式訓練
多数傷病者の発生を想定した大規模応急救護所の設置・運用等の訓練
多数傷病者の発生を想定した救出訓練
緊急消防援助隊の集結訓練および受入れの部隊運営訓練から実際の活動までの総合的な訓練
数台以上のポンプ車を連結させた吸水・長距離送水訓練
ヘリコプターおよび消防艇での緊急物資搬出・搬入訓練
ヘリコプターを用いる消防隊、救急隊および救助隊の救出訓練
空中消火等のヘリコプターと地上部隊との連携訓練
大規模な座屈建物や瓦礫からの救助訓練
市民、企業、市町村職員、消防団員等が対象の個別および総合的な訓練・研修

< 回答消防局数 10 消防局 >

問 5 平常時の有効利用のため必要なもの

無線基地局
緊急消防援助隊動態情報システム
地方公共団体の災害対策本部、国の関係機関と連絡のための情報・通信機器
多数の機体の離発着場と駐機できるエプロン施設
山岳救助・水難救助等にも幅広く対応できる訓練施設
倒壊家屋（木造、耐火等）訓練施設
BC 災害等の訓練施設
救助・救出および火災防御訓練の可能な訓練施設
多種類の被害を想定（コンビナート、鉄道、トンネル等の特殊災害）が可能な訓練施設
大規模消防水利施設
夜間照明施設
ヘリコプターおよび車両の燃料備蓄施設
消防艇の護岸施設
緊急消防援助隊の受入れ時の部隊運営訓練ができる作戦室
パーティションフリーの多目的室
災害図上訓練のための設備（ハードウェアとソフトウェア）
ロールプレイング式訓練が行える設備（ハードウェアとソフトウェア）
市民に対する防災研修の場となる施設 （視聴覚設備、消火・避難・救急訓練等を実施できる設備）
自主防災組織を育成するための施設
訓練に適した多目的広場（消防車両や重機が進入可能であること）

< 回答消防局数 10 消防局 >

## 2.NPO へのアンケート結果

### 2.1 アンケート回答期間

平成 15 年 2 月 3 日～平成 15 年 2 月 13 日

### 2.2 アンケート依頼団体数、回答団体数および回答率

#### アンケート依頼団体数

426 団体

( 特定非営利活動法人 日本 NPO センターに活動内容を災害支援で登録している団体( 2002 年 9 月現在 ))

#### アンケート回答団体数

76 団体

#### 回答率

18% ( 76 / 426 )

( 依頼した 426 団体の内、29 団体が転居により所在地が不明であった。)

### 2.3 回答いただいた NPO の所在都道府県

回答いただいた NPO の所在都道府県	回答いただいた NPO 団体数
北海道	1
岩手県	1
秋田県	2
宮城県	2
栃木県	2
群馬県	1
埼玉県	1
千葉県	2
東京都	20
神奈川県	4
山梨県	2
新潟県	1
富山県	1
岐阜県	2
静岡県	5
愛知県	3
三重県	1
滋賀県	2
大阪府	2
兵庫県	2
奈良県	1
和歌山県	2
島根県	1
広島県	2
山口県	1
香川県	1
高知県	1
愛媛県	1
福岡県	3
長崎県	1
熊本県	1
大分県	2
沖縄県	1
計	76

## 2.4 質問項目

- |  |
|--|
| 問 1 都道府県内での被災者に対する支援活動の現状                  |
| 問 2 遠隔地への派遣による被災者支援活動の現状                   |
| 問 3 NPO が主催する支援活動のための研修（講習会）および訓練（実地訓練）の現状 |
| 問 4 他の団体が主催する研修（講習会）および訓練（実地訓練）参加の現状       |
| 問 5 広域防災拠点で期待する研修・訓練内容と必要とする設備             |
| 問 6 発災時を想定した場合、既存の広域防災拠点の活用方策              |

## 2.5 質問内容および回答結果

以降、質問項目ごとの内容および回答結果を示す。

**問 1 貴団体での都道府県内における被災者に対する支援活動の現状**

都道府県内での被災者に対する支援活動の有無

いずれかに をつけてください。

( Yes No )

支援可能な人数をご記入ください。

( \_\_\_\_\_人 )

活動内容 ( をつけてください )

- ・ ボランティア募集・派遣
- ・ 救援物資の調達
- ・ 救助 / 救急活動
- ・ 医療支援活動
- ・ 消防活動
- ・ 避難所での被災者支援活動
- ・ 災害弱者の介護支援活動
- ・ 被災者カウンセリング (心のケア)
- ・ 通訳
- ・ 防犯
- ・ 行方不明者捜索活動
- ・ 乳幼児の世話
- ・ 輸送
- ・ 土木・建設作業
- ・ 路上障害物除去活動
- ・ 清掃処理活動
- ・ 救援物資の分別・管理
- ・ 募金活動
- ・ ペットの世話
- ・ ボランティアコーディネータ (ボランティアセンターの開設・運営)
- ・ その他行政支援

その他支援活動があればご記入ください。

( )  
( )  
( )  
( )

都道府県内での被災者に対する支援活動が可能な団体数

(63 / 76) 団体

都道府県内における支援可能な人数

支援可能な人数	団体数
1人～10人	22
11人～50人	19
51人～100人	2
100人～500人	6
501人～	1

<回答数 ; 52 団体>

都道府県内における活動内容

都道府県内での活動内容で多いものは

ボランティア募集・派遣

避難所での被災者支援活動

救助 / 救急活動

救援物資の調達

募金活動

ボランティアコーディネータ ( ボランティアセンターの開設・運営 )

である。

また、その他の活動としては、以下の回答があった。

通信支援 ( 情報収集、無線中継 )

被災地でのマンション・住宅等の相談、建て替えのアドバイス、都市計画支援

感染症対策

遺体搬送

全国ネットワーク ( 震災がつなぐ全国ネットワーク、J ネット等 ) への情報提供等の中間支援機能

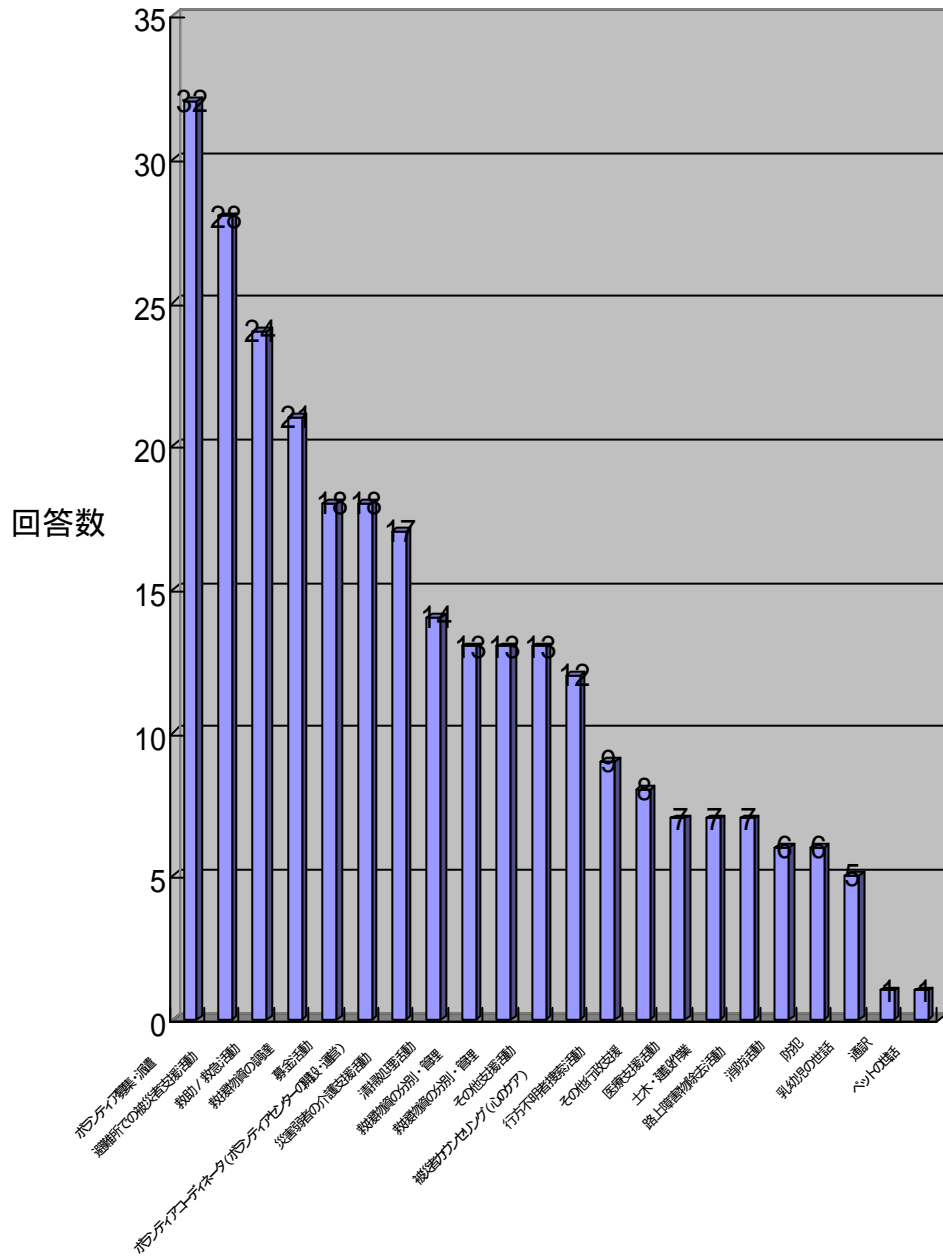
放送を通じて各種連絡など行政と連携して地域住民に対する支援

( コミュニティFM局 )

土砂災害の情報提供および二次災害防止の調査等の支援

法面が崩壊した土砂、大木等の除去作業

### 都道府県内における活動内容



< 回答団体 ; 63 団体 >



**問2 貴団体での遠隔地（例えば北海道であれば関東等）へのボランティア派遣による被災者支援活動の現状**

ボランティア派遣による被災者支援活動の有無

いずれかに をつけてください。

( Yes No )

派遣支援可能な人数をご記入ください。

( \_\_\_\_\_人 )

派遣支援活動内容 ( をつけてください )

- ・ ボランティア募集・派遣
- ・ 救援物資の調達
- ・ 救助 / 救急活動
- ・ 医療支援活動
- ・ 消防活動
- ・ 避難所での被災者支援活動
- ・ 災害弱者の介護支援活動
- ・ 被災者カウンセリング (心のケア)
- ・ 通訳
- ・ 防犯
- ・ 行方不明者捜索活動
- ・ 乳幼児の世話
- ・ 輸送
- ・ 土木・建設作業
- ・ 路上障害物除去活動
- ・ 清掃処理活動
- ・ 救援物資の分別・管理
- ・ 募金活動
- ・ ペットの世話
- ・ ボランティアコーディネータ (ボランティアセンターの開設・運営)
- ・ その他行政支援

その他支援活動があればご記入ください。

( \_\_\_\_\_ )

( \_\_\_\_\_ )

( \_\_\_\_\_ )

ボランティア派遣による被災者支援活動が可能な団体数

(41 / 76) 団体

派遣支援可能な人数

支援可能な人数	団体数
1人～10人	20
11人～50人	12
51人～100人	2

<回答数 ; 34 団体 >

遠隔地派遣による活動内容

遠隔地派遣による活動内容で多いものは

避難所での被災者支援活動

ボランティア募集・派遣

募金活動

救援物資の調達

救助 / 救急活動

である。

また、その他の活動としては、以下の回答があった。

通信支援（情報収集、無線中継）

広報・情報紙の編集

被災地でのマンション・住宅等の相談、建て替えのアドバイス、都市計画支援

感染症対策

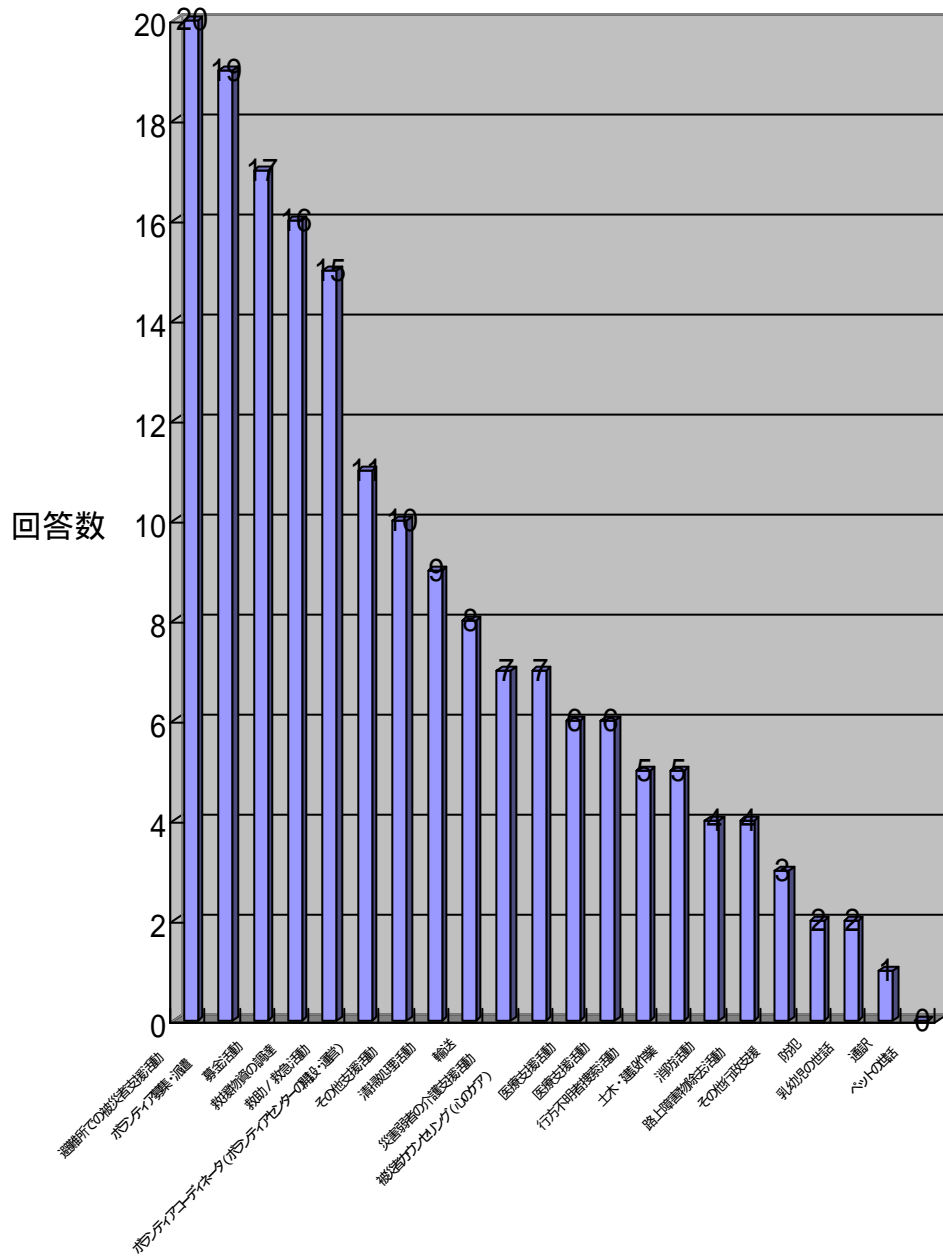
遺体搬送

全国ネットワーク（震災がつなぐ全国ネットワーク、Jネット等）への情報提供等の中間支援機能

土砂災害の情報提供および二次災害防止の調査等の支援

法面が崩壊した土砂、大木等の除去作業

### 遠隔地派遣による支援活動内容



< 回答団体 ; 41 団体 >

**問 3 貴団体が主催する支援活動のための研修（講習会）および訓練（実地訓練）の現状**

研修（講習会）の開催の有無	( Yes No )
研修（講習会）の開催頻度	( _____回 / 年 )
研修（講習会）の対象	( 登録者のみ 希望者 )
研修（講習会）にかかる参加費用	( _____回 / 円 )
訓練（実地訓練）の開催の有無	( Yes No )
訓練（実地訓練）の開催頻度	( _____回 / 年 )
訓練（実地訓練）の対象	( 登録者のみ 希望者 )
訓練（実地訓練）にかかる参加費用	( _____円 / 回 )

研修（講習会） 訓練（実地訓練）内容（ をつけてください）

・ 救助 / 救急活動	( 研修 訓練 )
・ 医療支援活動	( 研修 訓練 )
・ 消防活動	( 研修 訓練 )
・ 避難所での被災者支援活動	( 研修 訓練 )
・ 災害弱者の介護支援活動	( 研修 訓練 )
・ 被災者カウンセリング（心のケア）	( 研修 訓練 )
・ 通訳	( 研修 訓練 )
・ 防犯	( 研修 訓練 )
・ 行方不明者捜索活動	( 研修 訓練 )
・ 乳幼児の世話	( 研修 訓練 )
・ 輸送	( 研修 訓練 )
・ 土木・建設作業	( 研修 訓練 )
・ 路上障害物除去活動	( 研修 訓練 )
・ 清掃処理活動	( 研修 訓練 )
・ 救援物資の分別・管理	( 研修 訓練 )
・ 募金活動	( 研修 訓練 )
・ ペットの世話	( 研修 訓練 )
・ ボランティアコーディネータ	( 研修 訓練 )
( ボランティアセンターの開設・運営 )	
・ その他行政支援	( 研修 訓練 )

その他主催する研修（講習会） 訓練（実地訓練）内容があればご記入ください。

( \_\_\_\_\_ )  
 ( \_\_\_\_\_ )

研修（講習会）の開催の有無

（37 / 76）団体

研修（講習会）の開催頻度

研修（講習会）の開催頻度	団体数
1回 / 年	13
2回 / 年 ~ 5回 / 年	18
6回 / 年 ~ 10回 / 年	1
11回 / 年 ~	2

< 回答数 ; 34 団体 >

研修（講習会）の対象

研修（講習会）の対象	団体数
登録者	6
希望者	27

< 回答数 ; 33 団体 >

研修（講習会）にかかる参加費用

研修（講習会）にかかる参加費用	団体数
無料	11
~ 1000 円 / 回	3
~ 10000 円 / 回	5
~ 100000 円 / 回	3
実費	1

< 回答数 ; 23 団体 >

10000 ~ 100000 (円 / 回) の比較的高額のもの、災害救助犬、被災者カウンセリング (心のケア) に関する研修 (講習会) である。

主催する研修（講習会）内容

主催する研修（講習会）内容で多いものは

救助／救急活動

避難所での被災者支援活動

災害弱者の介護支援活動

である。

また、その他の研修（講習会）内容としては、以下の回答があった。

自主防災組織リーダー、ボランティアリーダーの育成講座

災害シミュレーション

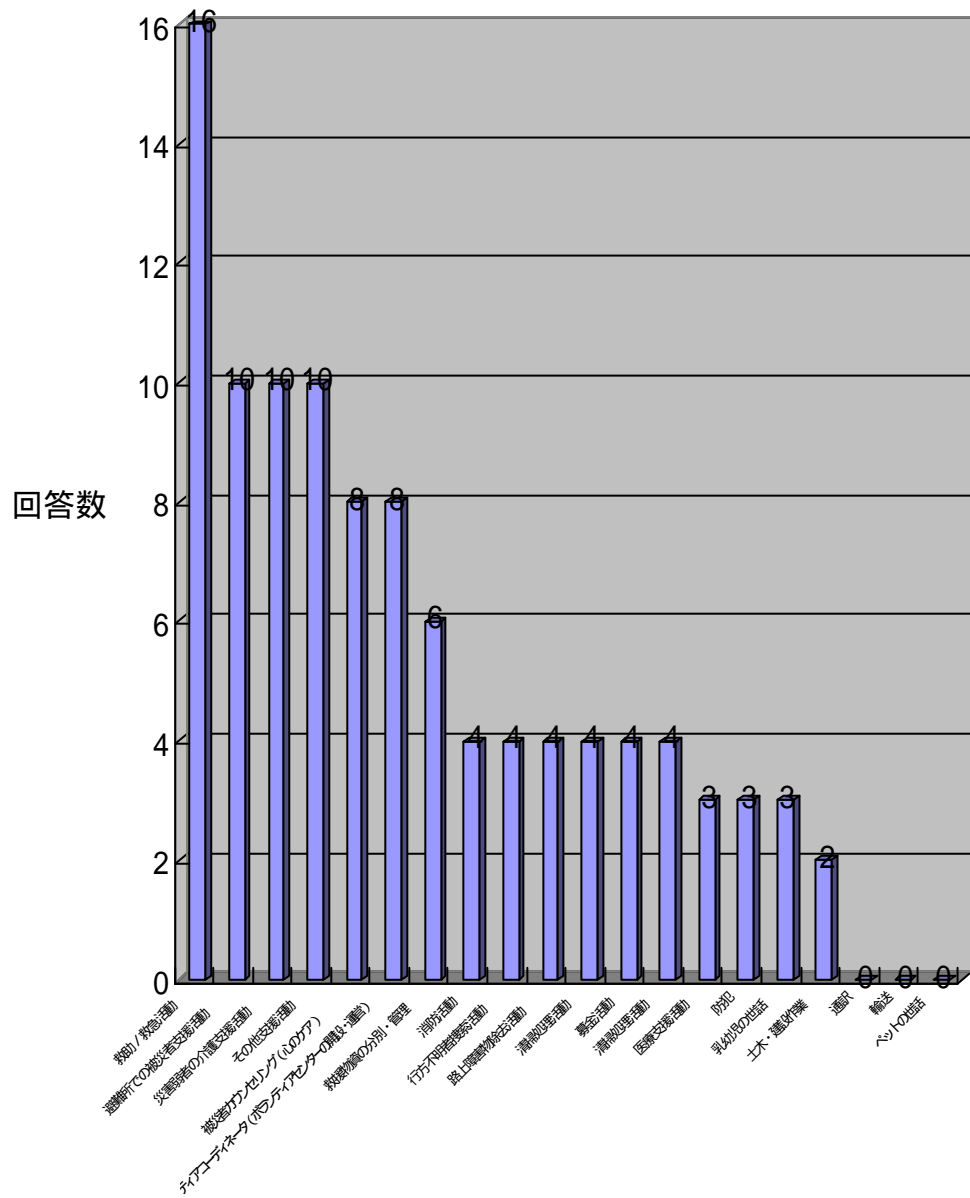
斜面判定研修

遺体搬送

防災意識の高揚をはかるとともに、人的ネットワークづくりのための研修

人的被害いかに低減させるかの事前対策の方法に関する講習

### 主催する研修(講習会内容)



< 回答団体 ; 37 団体 >

訓練（実地訓練）の開催の有無

（26 / 76）団体

訓練（実地訓練）の開催頻度

訓練（実地訓練）の開催頻度	団体数
1回 / 年	8
2回 / 年 ~ 5回 / 年	6
6回 / 年 ~ 10回 / 年	1
11回 / 年 ~	5

< 回答数 ; 20 団体 >

訓練（実地訓練）の対象

訓練（実地訓練）の対象	団体数
登録者	4
希望者	17

< 回答数 ; 21 団体 >

訓練（実地訓練）にかかる参加費用

訓練（実地訓練）にかかる参加費用	団体数
無料	6
~ 10000 円 / 回	1
~ 50000 円 / 回	3
実費	1

< 回答数 ; 11 団体 >

10000 ~ 50000（円 / 回）の比較的高額のものは、災害救助犬、救命蘇生に関する訓練（実地訓練）である。



主催する訓練（実地訓練）内容

主催する訓練（実地訓練）内容で多いものは

救助／救急活動

ボランティアコーディネータ（ボランティアセンターの開設・運営）

である。

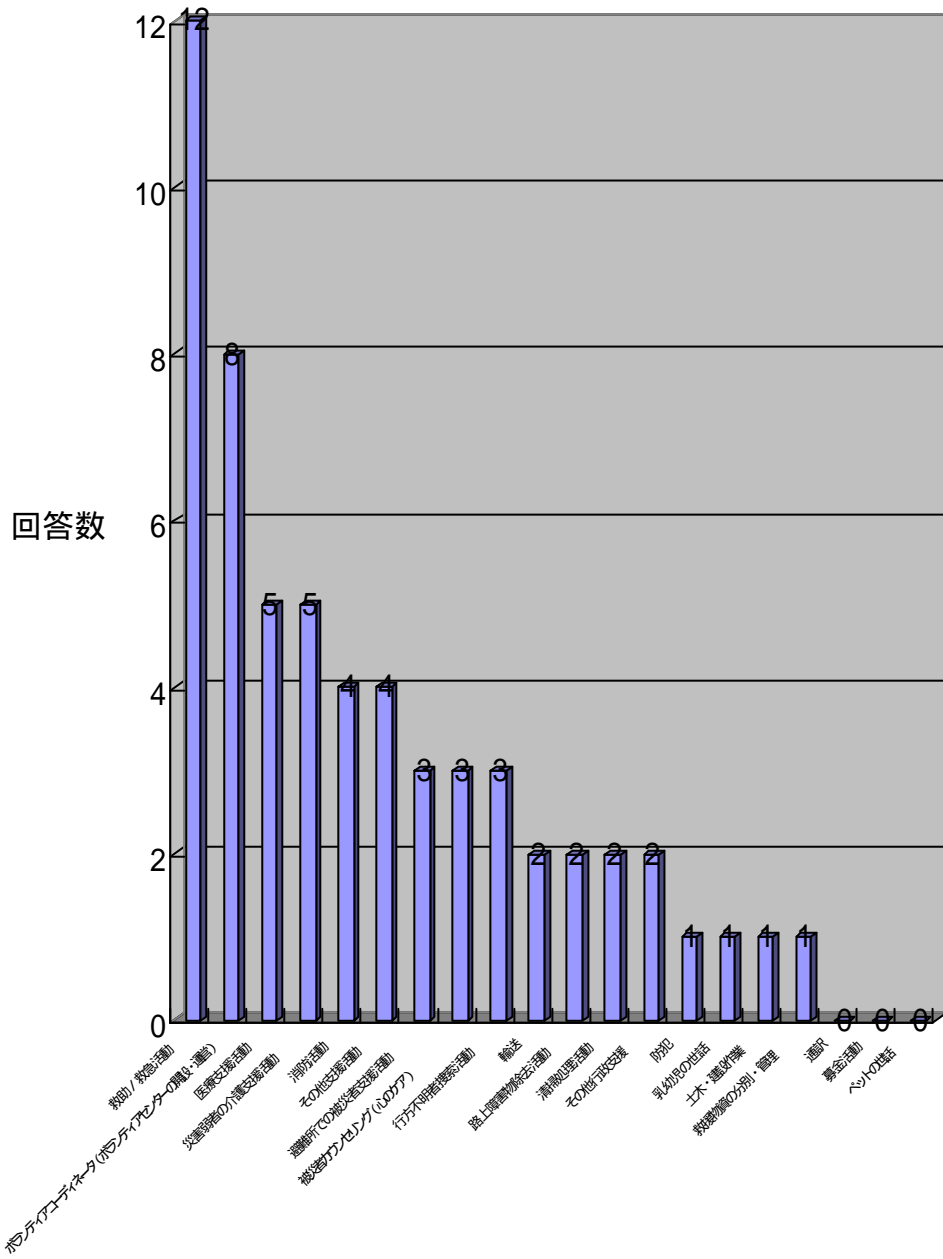
また、その他の訓練（実地訓練）内容としては、以下の回答があった。

災害図上訓練

津波発生時の救助活動訓練

通信訓練（アマチュア無線、e - メールを用いた情報の収集・発信訓練）

### 主催する訓練 (実地訓練) 内容



< 回答団体 ; 26 団体 >

問 4 他の団体が主催する研修（講習会）もしくは訓練（実地訓練）の現状

研修（講習会）もしくは訓練（実地訓練）への参加の有無 ( Yes No )

研修（講習会）もしくは訓練（実地訓練）の参加頻度 ( \_\_\_\_\_回・人/年)

研修（講習会）もしくは訓練（実地訓練）の主催主体 ( をつけてください)

- ・地方公共団体主催
- ・消防学校主催
- ・社会福祉協議会主催
- ・日本赤十字社主催
- ・大学主催
- ・災害救援ボランティアネットワーク主催
- ・その他( \_\_\_\_\_ )

研修（講習会）もしくは訓練（実地訓練）にかかる参加費用 ( \_\_\_\_\_円/回)

参加した研修（講習会）もしくは訓練（実地訓練）内容 ( をつけてください)

- ・救助/救急活動 ( 研修 訓練 )
- ・医療支援活動 ( 研修 訓練 )
- ・消防活動 ( 研修 訓練 )
- ・避難所での被災者支援活動 ( 研修 訓練 )
- ・災害弱者の介護支援活動 ( 研修 訓練 )
- ・被災者カウンセリング(心のケア) ( 研修 訓練 )
- ・通訳 ( 研修 訓練 )
- ・防犯 ( 研修 訓練 )
- ・行方不明者捜索活動 ( 研修 訓練 )
- ・乳幼児の世話 ( 研修 訓練 )
- ・輸送 ( 研修 訓練 )
- ・土木・建設作業 ( 研修 訓練 )
- ・路上障害物除去活動 ( 研修 訓練 )
- ・清掃処理活動 ( 研修 訓練 )
- ・救援物資の分別・管理 ( 研修 訓練 )
- ・募金活動 ( 研修 訓練 )
- ・ペットの世話 ( 研修 訓練 )
- ・ボランティアコーディネータ(ボランティアセンターの開設・運営) ( 研修 訓練 )
- ・その他行政支援 ( 研修 訓練 )
- ・その他参加した研修（講習会）内容があればご記入ください。

( \_\_\_\_\_ )

( \_\_\_\_\_ )

研修（講習会）もしくは訓練（実地訓練）への参加の有無

（36 / 76）団体

研修（講習会）もしくは訓練（実地訓練）の参加頻度

研修（講習会）もしくは訓練（実地訓練）の参加頻度	団体数
1回 / 年	6
2回 / 年 ~ 5回 / 年	18
6回 / 年 ~ 10回 / 年	2
11回 / 年 ~	4

< 回答数 ; 30 団体 >

研修（講習会）もしくは訓練（実地訓練）の主催主体

研修（講習会）もしくは訓練（実地訓練）の実施主体	団体数
地方公共団体	23
消防学校	3
社会福祉協議会	8
日本赤十字社	8
大学	2
災害救援ボランティアネットワーク	14

< 回答数 ; 30 団体 >

研修（講習会）もしくは訓練（実地訓練）にかかる参加費用

研修（講習会）もしくは訓練（実地訓練）にかかる参加費用	団体数
無料	11
~ 10000 円 / 回	12
~ 100000 円 / 回	2
実費	2

< 回答数 ; 27 団体 >

参加した研修（講習会）内容

参加した研修（講習会）で多いものは

救助／救急活動

ボランティアコーディネータ（ボランティアセンターの開設・運営）

避難所での被災者支援活動

消防活動

である。

参加した訓練（実地訓練）内容

参加した訓練（実地訓練）内容で多いものは

救助／救急活動

消防活動

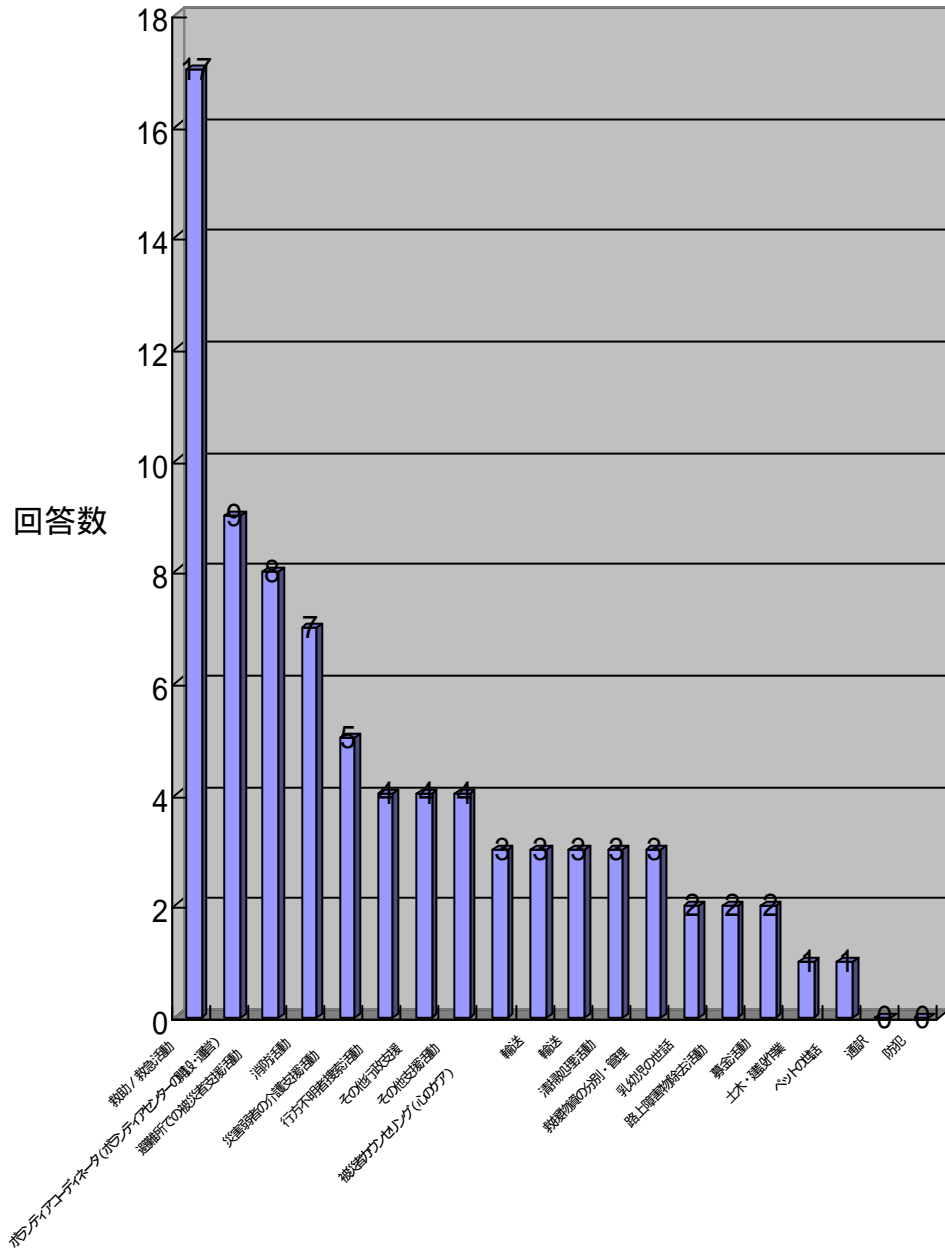
ボランティアコーディネータ（ボランティアセンターの開設・運営）

また、その他、参加した訓練（実地訓練）内容としては、以下の回答があった。

情報送信訓練

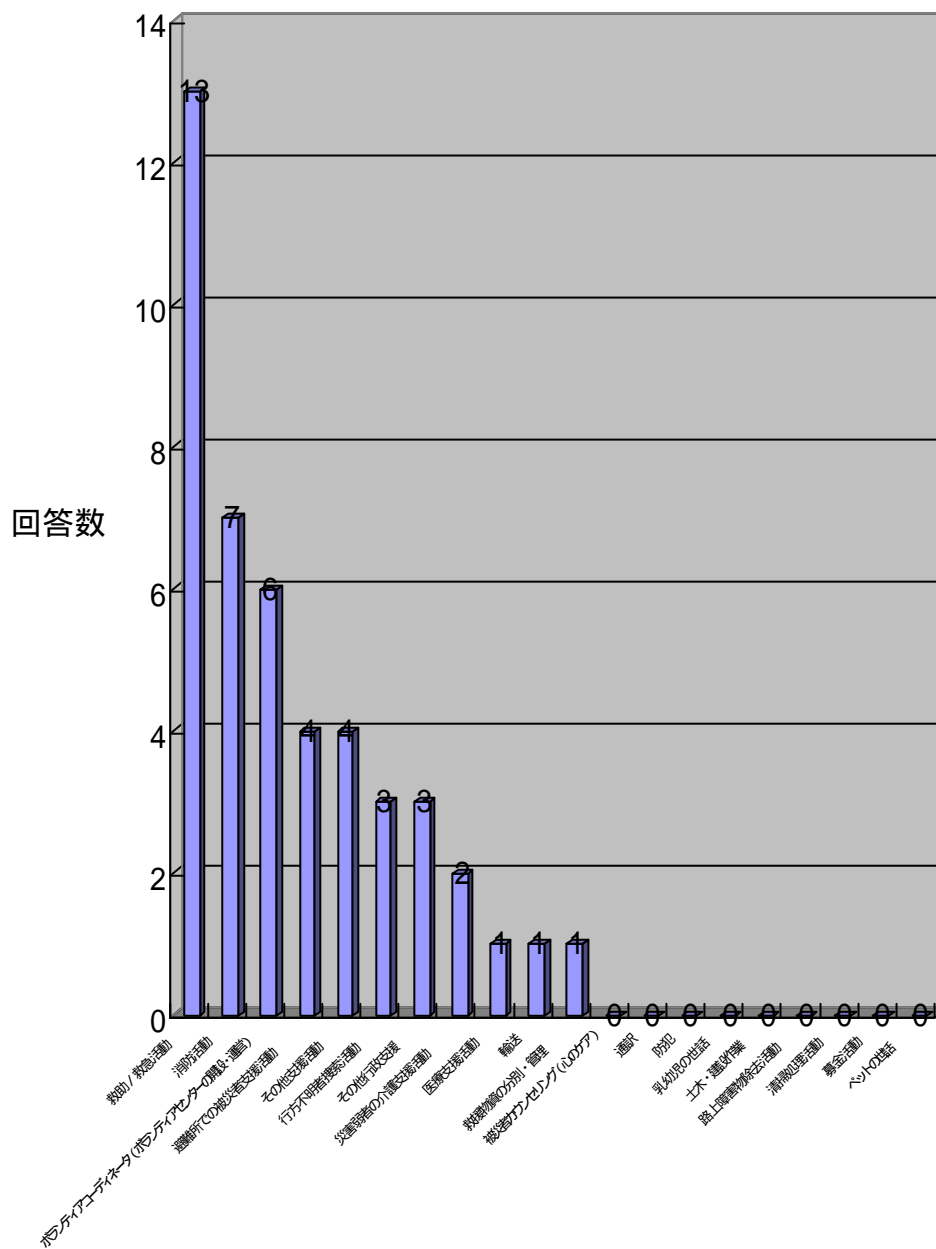
東海地震を想定した災害図上訓練

### 参加した研修(講習会)内容



< 回答団体 ; 36 団体 >

### 参加した訓練(実地訓練)内容



< 回答団体 ; 36 団体 >

**問 5 広域防災拠点で期待する研修・訓練内容と必要とする設備**

広域防災拠点で期待する研修・訓練（実地訓練）内容（ をつけてください）

- ・救助 / 救急活動 ( 研修 訓練 )
- ・医療支援活動 ( 研修 訓練 )
- ・消防活動 ( 研修 訓練 )
- ・避難所での被災者支援活動 ( 研修 訓練 )
- ・災害弱者の介護支援活動 ( 研修 訓練 )
- ・被災者カウンセリング（心のケア） ( 研修 訓練 )
- ・通訳 ( 研修 訓練 )
- ・防犯 ( 研修 訓練 )
- ・行方不明者捜索活動 ( 研修 訓練 )
- ・乳幼児の世話 ( 研修 訓練 )
- ・輸送 ( 研修 訓練 )
- ・土木・建設作業 ( 研修 訓練 )
- ・路上障害物除去活動 ( 研修 訓練 )
- ・清掃処理活動 ( 研修 訓練 )
- ・救援物資の分別・管理 ( 研修 訓練 )
- ・募金活動 ( 研修 訓練 )
- ・ペットの世話 ( 研修 訓練 )
- ・ボランティアコーディネート ( 研修 訓練 )
- ・その他行政支援 ( 研修 訓練 )
- ・その他参加した訓練（実地訓練）内容があればご記入ください。
- ( )
- ( )

必要となる研修・訓練設備をご記入ください。（情報インフラを含みます）

- ( )
- ( )
- ( )
- ( )
- ( )



広域防災拠点で期待する研修内容

広域防災拠点での研修で期待するものとして、以下の回答があった。

被災者カウンセリング（心のケア）

救助／救急活動

避難所での被災者支援活動

ボランティアコーディネータ（ボランティアセンターの開設・運営）

災害弱者の介護支援活動

医療支援活動

また、その他、広域防災拠点で期待する研修内容としては、以下の回答があった。

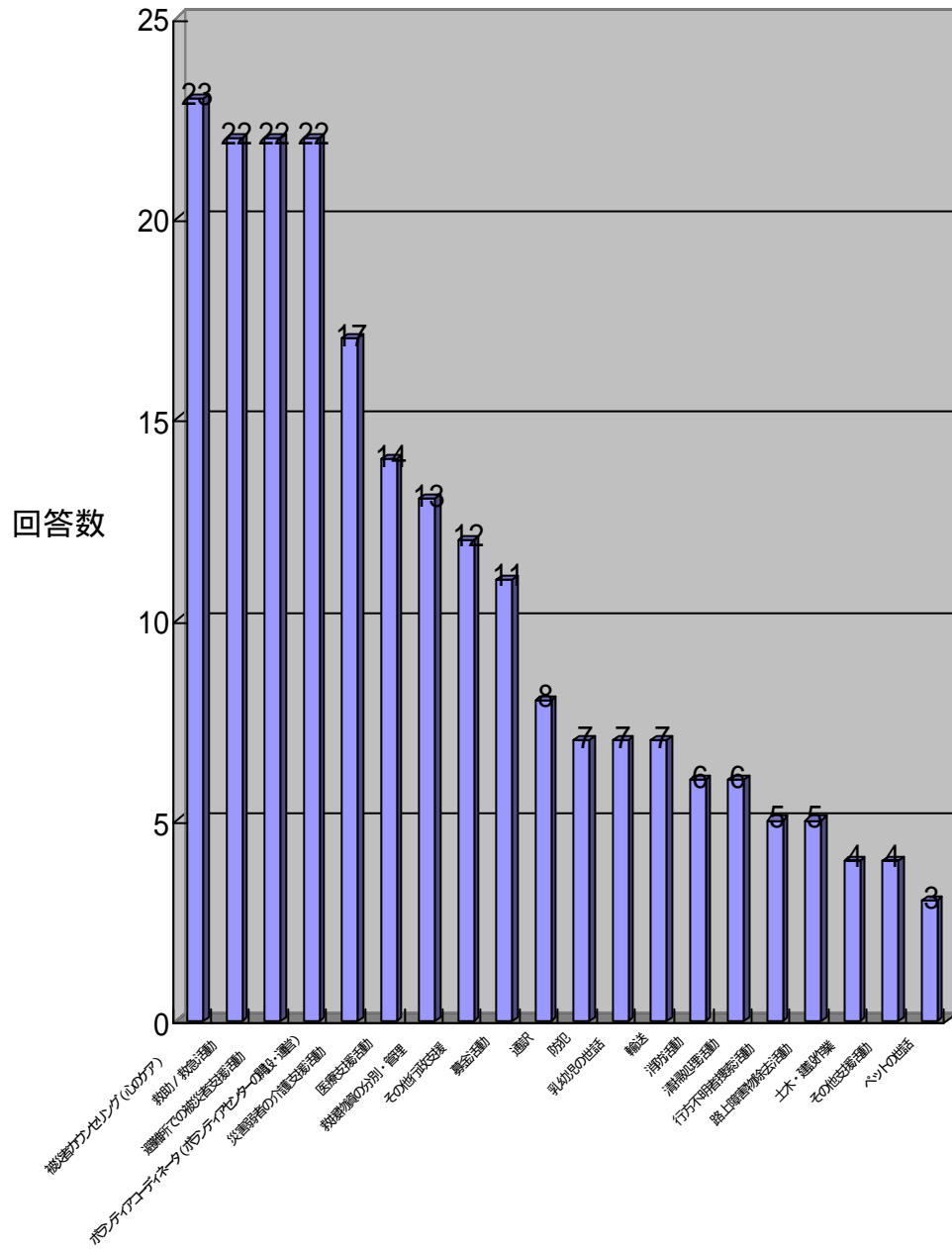
救急・救命講習

自主防災組織や自治会が参加できる研修（地域の防災マップづくり）

大規模災害発生時の救援体制

他の地域との連絡方法

### 広域防災拠点で期待する研修内容



< 回答団体 ; 76 団体 >

広域防災拠点で期待する訓練（実地訓練）内容

広域防災拠点での訓練（実地訓練）で期待するものとして、以下の回答があった。

救助／救急活動

避難所での被災者支援活動

医療支援活動

災害弱者の介護支援活動

救援物資の分別・管理

ボランティアコーディネータ（ボランティアセンターの開設・運営）

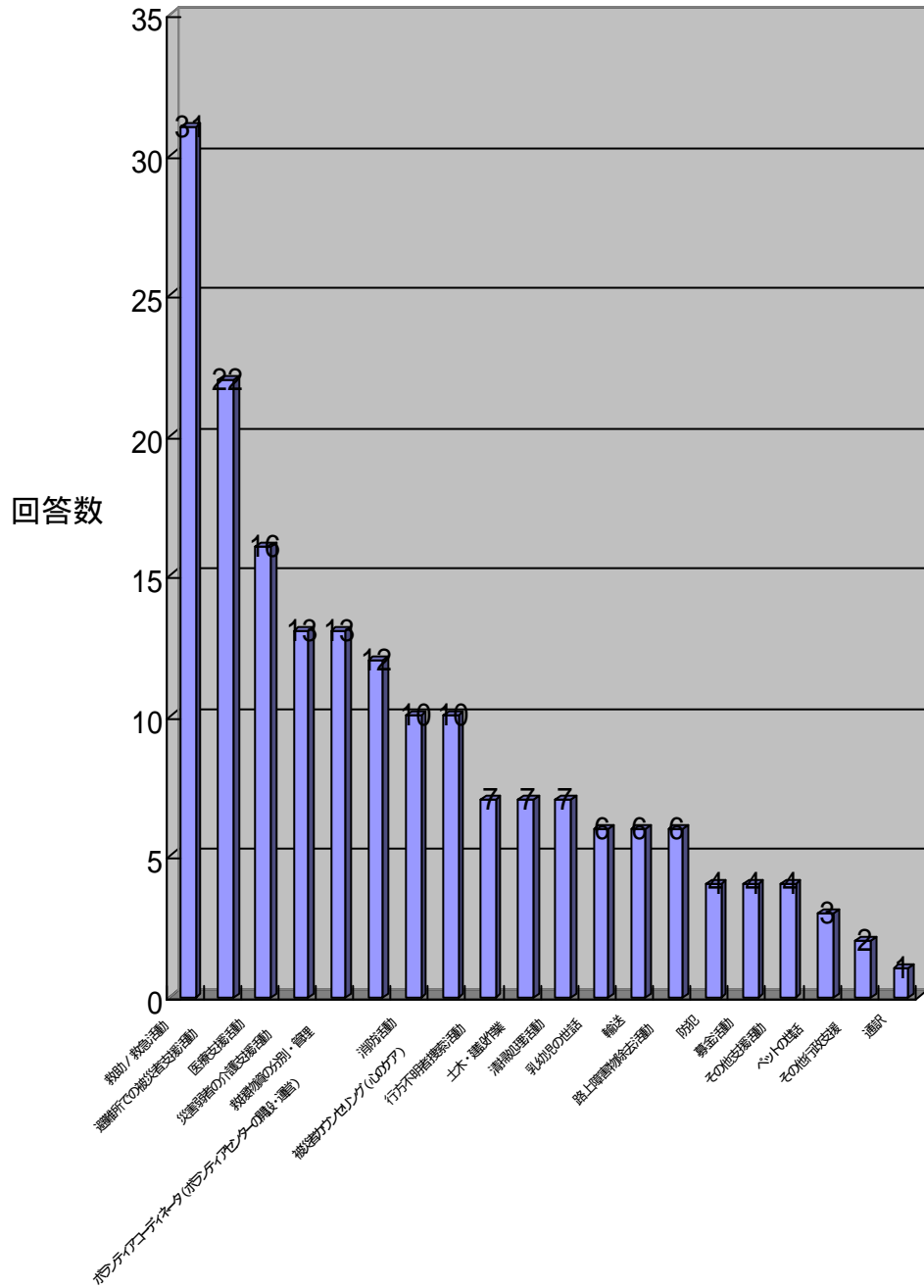
また、その他、広域防災拠点で期待する訓練（実地訓練）内容としては、以下の回答があった。

救急・救命講習

自主防災組織や自治会が参加できる災害図上訓練

発災時の行政との連絡を取るための訓練

### 広域防災拠点で期待する訓練(実地訓練)内容



< 回答団体 ; 76 団体 >

必要となる研修・訓練設備

情報収集のためのバイク走行訓練設備（発災を想定したコース）

パソコンを用いた図上訓練設備

通信の訓練設備（アマチュア無線機、インターネット専用回線、パソコン等の情報情報機器）

ボランティアセンターを開設するに必要な資機材、炊き出し機材

トリアージ訓練用機材、車椅子、白杖、アイマスクなど疑似体験用具

**問 6 発災時を想定した場合、貴団体としての既存の広域防災拠点の活用方策**

**発災時を想定した場合、貴団体として既存の広域防災拠点をどのような活用・利用したいと考えておられるかご記入ください。**

ex. 被災現地のボランティアセンターとの連絡・調整  
社会福祉協議会、日本赤十字ならびに他のボランティア団体との連絡・調整  
人員および車両集結場所 等

**< 記入欄 >**

**上記で挙げられた活用・利用を考えた場合、既存の広域防災拠点の充実度についてお聞かせください。（ をつけてください）**

（ 充分 不充分 ）

**上記で挙げられた活用・利用を考えた場合、既存の広域防災拠点の機能もしくは施設に関して質的・量的に不足している点があればご記入ください。**

ex. 被災現地のボランティアセンターと連絡手段が充分ではない  
社会福祉協議会、日本赤十字ならびに他のボランティア団体との連絡手段が充分ではない  
人員および車両集結のためのスペースが充分ではない  
広域防災拠点周辺の交通アクセス（道路整備）が不十分である 等

**< 記入欄 >**

### 発災時を想定した場合、既存の広域防災拠点の活用・利用

主として、災害活動に関係する団体との連絡・調整としての利用が挙げられたが、全体マネジメントとトラブル処理機能や各ボランティアセンター間の連絡・調整といった高所に立った機能を持つべきとの要望も挙げられた。

活用・利用	回答数
社会福祉協議会、日本赤十字社、他のボランティア団体、NPO との連絡・調整	23
被災現地のボランティアセンターとの連絡・調整	14
人員および車両集結場所	9
行政機関との連絡機能	4
全体マネジメントとトラブル処理機能	3
ボランティアセンターの設立・運営の支援	3
各ボランティアセンター間の連絡・調整	3
ボランティア活動に必要な情報を集約・処理・発信する情報センター機能	3
ボランティア組織の総合的な組み合わせによる活動支援体制の調整	1
被害が長期化した場合の各種カウンセリング（PTSD）センター	1
被災現地のボランティア団体が被災した場合の代替的な設備利用	1
ヘリで搬送された疾病者の応急手当	1
ボランティアの宿泊利用	1
災害図上訓練の実施＜平常時＞	1
ボランティア団体の災害対応資機材の仮置き＜平常時＞	1

< 回答 ; 53 団体 >

### 上記で挙げられた活用・利用を考えた場合、既存の広域防災拠点の充実度

ほとんどの団体により不十分との回答が得られた。

充実度	回答団体数
充分	6
どちらともいえない	3
不十分	40
未回答	27

上記で挙げられた活用・利用を考えた場合、機能もしくは施設で質的・量的に不足している点

機能もしくは施設で質的・量的に不足している点	回答数
被災現地のボランティアセンターと連絡手段が充分ではない	8
社会福祉協議会、日本赤十字ならびに他のボランティア団体との連絡手段が充分ではない	7
人員および車両集結のためのスペースが充分ではない。	5
広域防災拠点周辺の交通アクセス（道路整備）が不十分である	4
一般市民に広域防災拠点自身の存在に関する情報が浸透してない。（防災情報を共有化するための防災マップを作成し、広域防災活動に携わるものに配布し、状況の周知徹底等のアピールが必要ではないか。）	4
的確に現地情報を把握するための情報集約する仕組みが充分とはいえない。	3
広域防災拠点内外、行政、NPO とのネットワークが充分でない。	2
非常救急用品および食料品等の保管場所の情報管理がなされていない。	2
防災・災害救援に関わるセクター間のネットワーク構築の中心となるような組織体制づくりが不十分。	1
発災時に特化した技量を持つ専門団体のすべてを総括し、マネジメントできる人材を含めた機能面が充分とはいえない。	1

< 回答 ; 37 団体 >



その他、関連して、以下の意見があった。

阪神・淡路大震災の時は、飲料水確保が問題となったと記憶しており、広域防災拠点のプールがあるとすれば、水浄化システム（7000～8000万円）を設置しておくことと良いのではないかと考える。

発災初期は、食料、水、医薬品、燃料の調達が第一に求められ、ボランティアもしくは自主防災組織等の支援ルートがあるのかを事前に把握し、どこに、どのような人が、どれくらいいるのかの情報を集約していることが支援の円滑化に結びつく。

被災地での住宅問題（修理、建て替え、代替地等）の法的配慮  
心のケアが防災計画に入っていない。

物理的なネットワークもさることながら心のネットワークが重要である。

NPO、NGO、ボランティア、警察、消防等の発災時に救護活動に当たる組織・団体を総括できる横断的な『危機管理局』的な機能を都道府県単位で設け、知事直轄で運営できないか。（これにより発災直後の活動がスムーズにでき、情報の一元管理が行え、指揮系統も一本化し、効率的な災害救援が可能になると思う。）